

みずほマーケット・トピック(2024 年 9 月 20 日)

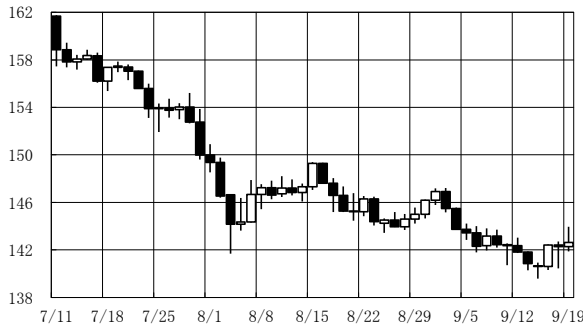
内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

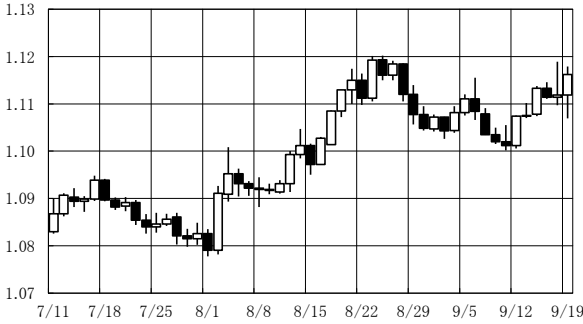
- 今週のドル/円は週初に年初来最安値を更新も、FOMC通過後は堅調に推移した。週初16日、140.86円でオープンしたドル/円は、9月FOMCでの大幅利下げ期待の高まりからドル安の流れが継続。本邦休日で薄商いの中、140円を割り込んだ。海外時間は、一時139.58円まで下げ幅を拡大し年初来最安値を更新も、その後は米9月NY連銀製造業景気指数の強い結果を好感し140円台後半に値を戻した。17日、ドル/円は様子見ムードの中で、140円台半ばから後半を中心にレンジ推移。海外時間は、米8月小売売上高が予想外に増加したことをきっかけに米金利が上昇し、連れて142円台前半に上伸した。18日、ドル/円はドル売り相場の中で、141円台前半に下押し。海外時間は、FOMCの▲50bpの利下げ発表直後は米金利低下と共に140円台半ばに急落も、利下げペースに関するパウエルFRB議長の市場予想対比タカ派な情報発信でドル買いが加速し、一時142円台後半に反発した。19日、ドル/円はドル買い地合いが継続し一時週高値となる143.95円まで上昇したが、米金利低下が重しとなり上に往って来い。海外時間は、複数の米経済指標の堅調な結果を受けた米金利上昇に支えられ143円台後半に再反発も、米金利が上昇幅を縮小させる流れにつれ、142円台後半に水準を下げた。本日のドル/円は、引き続き142円台半ばで取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは独金利上昇や良好な市場心理に支えられ、底堅く推移した。週初16日、1.1088でオープンしたユーロ/ドルは9月FOMCにおける大幅利下げを警戒したドル売りが支えとなり、1.11台前半に上昇した。17日、ユーロ/ドルは1.11台半ばに続伸したものの、独9月ZEW景気期待指数の弱い結果や米金利上昇が重しとなり、1.11台前半に反落した。18日、ユーロ/ドルはFOMCの大幅利下げ実施を受けて一時週高値となる1.1189まで急伸も、パウエル議長会見のタカ派な内容を受けたドル買いに押され、一時1.11を割り込んだ。その後は、1.11台前半を回復して引けている。19日、ユーロ/ドルはドル買い相場が継続し一時週安値となる1.1069に続落。その後、米金利の上下に振られる展開となり、1.11台半ばを中心に方向感なく推移した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.11台後半で取引されている。

		前週末	今 週				
		9/13(Fri)	9/16(Mon)	9/17(Tue)	9/18(Wed)	9/19(Thu)	
ドル/円	東京9:00	141.47	140.86	140.83	141.96	142.71	
	High	141.88	140.91	142.43	142.71	143.95	
	Low	140.29	139.58	140.33	140.45	141.90	
	NY 17:00	140.84	140.62	142.39	142.27	142.63	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1079	1.1088	1.1129	1.1122	1.1115	
	High	1.1102	1.1138	1.1146	1.1189	1.1178	
	Low	1.1071	1.1077	1.1111	1.1097	1.1069	
	NY 17:00	1.1076	1.1133	1.1115	1.1118	1.1162	
ユーロ/円	東京9:00	156.80	156.10	156.60	157.78	158.66	
	High	157.05	156.10	158.30	158.37	159.95	
	Low	155.65	155.45	156.12	157.09	157.92	
	NY 17:00	156.03	155.53	158.30	158.25	159.12	
日経平均株価		36,581.76	-	36,203.22	36,380.17	37,155.33	
TOPIX		2,571.14	-	2,555.76	2,565.37	2,616.87	
NYダウ工業株30種平均		41,393.78	41,622.08	41,606.18	41,503.10	42,025.19	
NASDAQ		17,683.98	17,592.13	17,628.06	17,573.30	18,013.98	
日本10年債		0.84%	-	0.82%	0.82%	0.85%	
米国10年債		3.66%	3.62%	3.65%	3.71%	3.72%	
原油価格(WTI)		68.65	70.09	69.96	69.88	71.16	
金(NY)		2,610.70	2,608.90	2,592.40	2,598.60	2,614.60	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、27日(金)に8月個人消費支出(PCE)デフレーターが公表予定となっている。前回7月の結果は、総合ベースでは+2.5%(前年比、以下同様)と市場予想および6月と一致した。一方、コアベースでは、+2.6%と市場予想の+2.7%を下振れ、6月から横ばいとなった。総合・コアいずれも6月から横ばいとなっており、8月消費者物価指数(CPI)と同様、FRBの利下げ路線にとっては良好な結果が続いた。コア部分を確認しても、コア財価格は下落幅を縮小させているものの、コアサービスの鈍化基調は継続しており、コア全体も落ち着いている。かかる中開催された9月FOMCは、▲50bpの利下げを実施、更新されたスタッフ経済見通しにおいてはインフレ見通しを下方修正した。声明文でもディスインフレに関する文言がより強気に修正されており、インフレへの警戒度を明確に引き下げている。なお、ブルームバーグの事前予想では、8月の結果に関し総合ベースで+2.3%、コアベースで+2.7%と見込んでいる。
- 本邦では、27日(金)に自民党総裁選の投開票を控える。今回は、推薦人が必要になった1972年以降で最大となる9名が立候補するなど乱戦の様相を呈している。なお、1回の投票で過半数を獲得する候補者が不在であった場合、上位2名による決選投票に移行する運びだ。世論調査を確認する限りでは、石破氏と小泉氏のリードが大きく、その他候補者では高市氏、河野氏、小林氏などへの支持が集まっているようだ。為替市場では、金融政策と関連付けて報じる向きもあるが、「ハト派」な姿勢を押し出しているのは、主だった候補者では高市氏くらいだ。半面、河野氏がタカ派な発言を行い、為替市場が円高に振れたことは記憶に新しい。特に日本の政治経済事情に詳しくない海外の投機筋にとっては、「タカ派的な新政権」の誕生は絶好の円買い材料になる可能性もあるだけに、相場の急変動にも警戒が必要だ。

	本 邦	海 外
9月20日(金)	・8月消費者物価指数 ・植田日銀総裁会見	・独8月生産者物価指数 ・ユーロ圏9月消費者信頼感(速報)
23日(月)	—	・ユーロ圏9月製造業/非製造業PMI(速報) ・米9月製造業/非製造業PMI(速報)
24日(火)	・9月製造業/非製造業PMI(速報)	・独9月IFO企業景況感指数 ・米7月FHFA住宅価格指数 ・米9月コンファレンスボード消費者信頼感
25日(水)	・8月企業向けサービス価格指数	・米8月新築住宅販売件数
26日(木)	・8月工作機械受注(確報) ・日銀金融政策決定会合議事要旨(7月会合分)	・独10月GfK消費者信頼感 ・米4~6月期GDP(確報) ・米8月耐久財受注(速報)
27日(金)	・9月東京消費者物価指数 ・7月景気動向指数(確報) ・自民党総裁選 投開票	・ユーロ圏9月消費者信頼感(確報) ・米8月個人所得/支出 ・米8月個人消費支出デフレーター ・米9月ミシガン大学消費者マインド(確報)

【当面の主要行事日程(2024年9月~)】

自民党総裁選(9月27日開票)
 ECB政策理事会(10月17日、12月12日、1月30日)
 日銀金融政策決定会合(10月30~31日、12月18~19日、1月23~24日)
 FOMC(11月6~7日、12月17~18日、1月28~29日)

金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年9月19日	FOMCを終えて～思い出される糊代論と今後～
2024年9月18日	自民党総裁選～各候補の立ち位置と変わらぬ前提～
2024年9月17日	円高の背景にある需給改善～金利差に限らず～
2024年9月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年8月分)
	週末版(ECB政策理事会を終えて～予定通りも25年以降の不透明感強く～)
2024年9月11日	ECB政策理事会プレビュー～問題は2025年以降～
2024年9月10日	衰えなかった家計部門の投資意欲～資産選別の兆候も～
2024年9月9日	デジタル赤字にまつわる誤解～米国独り勝ちというバイアス～
2024年9月6日	週末版
2024年9月5日	ドイツ産業空洞化とユーロ相場について
2024年9月4日	いよいよ注目され始めたドイツの産業空洞化
2024年9月3日	大混乱から1か月～市場は安定を取り戻したか？～
2024年8月30日	週末版
2024年8月29日	日銀の自然利子率推計について～「中立金利1%」説～
2024年8月27日	ドル売りの持続性は？～買われるユーロ、英ポンド、円～
2024年8月26日	パウエル講演を受けて～気になる労働市場への評価～
2024年8月23日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～ユーロ相場の先行きについて～)
2024年8月21日	円ロングの積み上げが続くリスクはあるのか
2024年8月20日	企業買収を通じた対内直接投資の現状について
2024年8月19日	財PPP vs. サービスPPP～正しいのは円安か、円高か～
2024年8月16日	週末版(欧州経済の現状について～人手不足から需要不足へ～)
2024年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年7月分)
	ポスト岸田の考え方～金融政策の大勢に影響なし～
2024年8月14日	24年上半期の需給環境について～ほぼ均衡～
2024年8月13日	投機が去った円相場～注目は「家計の円売り」へ～
2024年8月9日	週末版(「円安バブル」報道について②～2005-07年との比較分析～)
2024年8月8日	「円安バブル」報道について①～05-07年との比較分析～
2024年8月2日	週末版(「日銀は変わった」はいつまで続くか～「やっぱり変わっていなかった」の怖さ～)
2024年8月1日	日銀会合を受けて～ドル/円相場の考え方～
2024年7月25日	週末版
2024年7月24日	インバウンド、「量」から「質」の意味するもの
2024年7月23日	バイデン撤退も市場動かず～円ショートは依然膨大～
2024年7月19日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「資金は必ず下がる」という自信～)
2024年7月18日	日銀会合プレビュー～円高だからこそ利上げ～
2024年7月17日	進むインフレ税による財政再建～資金循環統計～
2024年7月16日	復活しつつある「インフレの輸入」～利上げへの追い風～
2024年7月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年6月分)
	週末版(金利差に騒がない大事さ～問題は投機が去った後～)
2024年7月11日	株価、「真正正銘のバブル超え」の読み方
2024年7月10日	最近の円相場の需給環境について
2024年7月8日	米大統領選挙、現時点の解釈～為替市場の視点～
2024年7月4日	円安功罪論について～総論と各論を分けるべし～
2024年7月3日	短観(6月調査)が意味するもの～利上げは可能か～
2024年7月2日	フランス政局の行方と金融市場への影響
2024年7月1日	24年上半期を終えて～円は真正正銘の最弱通貨～
2024年6月28日	週末版
2024年6月27日	家計金融資産の現状～外貨比率は最高値更新へ～
2024年6月25日	「隠れ円安」への正しい理解～実効円安を見る努力を～
2024年6月24日	為替政策報告書～日本のリスト入りは形式上の不備～
2024年6月21日	週末版(欧州委員会による財政是正措置勧告～フランス極右政党 vs. 欧州委員会～)
2024年6月19日	本邦5月貿易収支を受けて～思ったよりも減らない赤字～
2024年6月18日	久しぶりの欧州政治騒動～27年まで波乱無しが基本に～
2024年6月17日	日銀金融政策決定会合を終えて～上がる期待値～
2024年6月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年5月分)
	週末版
2024年6月13日	FOMCを終えて～中立金利上昇と為替見通し～
2024年6月12日	既に前年実績を超えてしまった「家計の円売り」
2024年6月11日	懸念される旅行収支黒字の頭打ちという未来
2024年6月10日	円相場の需給環境について～4月までの総括～
2024年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利下げ局面入りへ～)
2024年6月5日	証券投資は巻き返すか？～収益率で考える未来～
2024年6月4日	敢えて考える対内直接投資促進の「負の側面」
2024年6月3日	強含む経済指標に囲まれるECB～ユーロ相場の考え方～
2024年5月31日	週末版
2024年5月29日	虚しく響く「33年連続、世界最大の対外純資産国」の肩書き
2024年5月28日	「This time is different」は利上げ予告か～内田講演～
2024年5月27日	加速したユーロ圏妥結賃金とECBブログの言い分
2024年5月24日	週末版
2024年5月23日	金利差縮小でも円安修正は進まず～議事要旨を受けて～
2024年5月22日	「もしとら」で注目される欧州の立ち回り
2024年5月21日	ユーロ圏経済の近況～「底入れ」という不都合な真実～
2024年5月20日	垣間見えたECBの「次の一手」～ECB理事インタビュー～
2024年5月17日	週末版(色濃くなるスタグフレーションの様相～窮屈になる日銀の政策環境～)
2024年5月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年4月分)
	円安抑止の処方箋～即効性と持続性のトレードオフ～
2024年5月14日	通貨政策化する金融政策～定着する「為替との戦い」～
2024年5月13日	1～3月期国際収支統計～需給改善を確認～
2024年5月10日	週末版
2024年5月9日	遂にインフレ税が始まったのか？～円安と債務～
2024年5月8日	FRBの「次の一手」と円相場の予想パスについて
2024年5月7日	円安抑止の処方箋～NISA国内投資枠～
2024年5月2日	週末版(レバトリ減税について～「5%の摩擦」に拘るべき～)
2024年4月30日	日銀が回避した為替との戦い、今後のリスク
2024年4月26日	週末版
2024年4月25日	トランプ氏と為替～結局、何も考えていない？～
2024年4月23日	世界経済の下方シフトの背景にあるもの～IMF分析～
2024年4月22日	ドル高是正の国際協調に機は熟せず～G20とドル高～
2024年4月19日	週末版
2024年4月18日	IMF世界経済見通しを受けて～またも「分断」はテーマに～
2024年4月17日	前途多難な貿易収支～待たれる電源構成の変化～
2024年4月16日	最悪のシナリオは米利上げ再開～中東リスクと円安
2024年4月15日	依然赤字圏のCFベース経常収支～原油価格騰勢の足音～